

Race Report

GT-CAR PRODUCE

— 2017 K耐久東海シリーズ 第2戦 2017年5月21日

「天晴！」



開幕戦から大きく成長し今回は完勝！ #149



またも2位 #45



初参加で初表彰台3位！ #138



走ることで成長をする #7



修復から復旧、見事完走 #150

元々5月は天気の良い印象があるが、この日の蒲郡地方は「五月晴れ」というよりすでに夏に近い気温を記録。7月のように空気に水分を含んでいないのが幸いでカラッと晴れたという雰囲気でもジメジメしていないのが救い。そんななかで行われたK耐久東海シリーズ第2戦、お天道さまもびっくりするほどのアツさと、爽やかさを届けてほしい。

「NN-B」クラス（軽NAのノーマルクラス ビギナー）

ノーマルクラスに設けられたビギナーとエキスパートの住み分けも、2年目に入り理解が進んできているようだ。以前にも取り上げたが、マシンレギュレーション的には同一でありながら、タイムやリザルトにはその違いが現れていると。ここからステップアップしたチームやドライバーが活躍してほしいと願います。さあ今回の5チームの若武者（必ずしも年齢ではないです）の戦いぶりはいかに。

■予選

予選トップは#149「K4EP アルト 149R」1' 10.662、気温の関係か2戦連続での10秒切りはならなかったものの2位以下に2秒近い差をつけた。

2位は#45「インフィニティーアルト」1' 12.589、こちらは開幕戦よりタイムアップ、まだまだ伸びるか。

3位は#150「SZK-150 アルト」1' 15.481、開幕戦の初出場初表彰台で自信をつけたか、こちらも大幅タイムアップ。

4位初参加の#138「ガレージタナカ PMU アルト」1' 17.073、初参加チームピンクのボディカラーと何故かのトヨタマークがワンポイント。

5位の#7「SevanRacing アルト」も初参加、1' 24.166で予選通過。

今回は全車がHA23Vのアルトバン。

■序盤

速さでは一歩先を行く#149「K4EP アルト 149R」、序盤トップから早めのピットインを消化。その間のトップ争いは#45「インフィニティーアルト」と#138「ガレージタナカ PMU アルト」。

4位に#149「K4EP アルト 149R」を挟んで、5位#150「SZK-150 アルト」と6位#7「SevanRacing アルト」が第2集団といったところ。

その#150「SZK-150 アルト」だが、開始直後に新ピットロードのパイロンに接触、その後30分頃にヘアピンでコースアウト、SC導入となる。

マシンは前部を修復した後戦線に復帰、レースを続行している。



Race Report



■中盤

中盤では予想通り#149「K4EP アルト 149R」がトップをキープ。2 位争いは#45「インフィニティーアルト」と#138「ガレージタナカPMUアルト」が同一周回で接戦を演じている。

4 位は#7「SevanRacing アルト」、5 位の#150「SZK-150 アルト」は一つでも上の順位に上がろうと懸命の走りを見せる。

■終盤

着々と首位がためを図る#149「K4EP アルト 149R」、2 位グループとの差は 2～3Lap でギャップをコントロール。その 2 位争いも相変わらず白熱。#45「インフィニティーアルト」が僅かに先行するが、#138「ガレージタナカ PMU アルト」も食らいつく、初参加ながら大健闘。

第 3 グループの 4 位はもそれは同じ、途中までつまっていた差にあまり変化が見られなくなってきている。#7「SevanRacing アルト」も初参加で健闘している。開幕戦で見せた#150「SZK-150 アルト」の再現のようだ。

■最終結果

結局チェッカーまでレースをコントロールした#149「K4EP アルト 149R」、が開幕 2 連勝。2 位争いを制した#45「インフィニティーアルト」、3 位には#138「ガレージタナカ PMU アルト」。

4 位#7「SevanRacing アルト」、5 位の#150「SZK-150 アルト」という結果に。

■総評

開幕戦の初勝利ですっかり自信をつけた#149「K4EP アルト 149R」、今回はまるで横綱相撲のような展開で見事 2 連勝。伸び盛りというのはこういうことを言うのだろう。

2 位の#45「インフィニティーアルト」は今回も惜しくも頂点には届かなかった。3 位#138「ガレージタナカPMUアルト」、4 位#7「SevanRacing アルト」はともに初参加ながらそれぞれのポジションで自分のレースをやりきった。これも大きな自信になることだろう。今回が 2 戦目の#150「SZK-150 アルト」も含めて、青空に負けない、実に天晴ないい戦いを見せてもらった。



自信をつけた



ビギナークラス



取ったぞ〜！ #5



一歩進めて 2 位 #55



連続 3 位表彰台！ #6



本命視されたが… #10



「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

「エキスパート」クラスは実力を持ったチームが集まるだけに接戦。開幕戦では、#10「FASTOUT」チームがまず 1 勝。しかしながらどのチームが勝っても不思議ではない雰囲気がある。

第 2 戦も開幕戦と同じ 4 チームがエントリー、今日はどんなドラマがあるか。#55「STC 中部」チームの旧規格ビート以外はアルトだが、#6「ロッキーレーシング」は HA23S とセダンを使う。（まあ見た目は同じようなものですけど）

■予選

予選トップは今回も#55「STC 中部 Hana's ビート」1'09.097。初参加の開幕戦は予選トップを活かせず 4 位という成績だったが、速さは証明、そしてレースの雰囲気は掴んだはず。これに信頼性が加われば自ずから成績はついてくる。

予選 2 位#10「FAST OUT 最速アルト V」1'09.750、今年の本命。開幕戦の勢いを繋げられればタイトルも見えてくる。

予選 3 位#5「Baden PROJECT K アルト」1'10.120、勝利なき王者の名前はもういらぬ、目指すは初勝利。

予選 4 位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」は 1'12.111。エキスパートのレベルを感じた開幕戦では見事 3 位、さあもう一つ階段を上がろう。

■序盤

今回もスタートから火花がパチパチ。最初のステイントでは#5「Baden PROJECT K アルト」を先頭に#10「FAST OUT 最速アルト V」、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、#55「STC 中部 Hana's ビート」の順で同一周回。さあどうなる！

そんな矢先#10「FAST OUT 最速アルト V」がミッショントラブルでリタイヤ、本命がわずか 36Lap で戦列を去ることに。

■中盤

中盤でトップを行くのは#55「STC 中部 Hana's ビート」、やはり開幕戦で何かを掴んだのか上位を走行。

それを僅かの差で追うのは#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、こちらもエキスパートクラスの走りを身に着けてきた。

3 位#5「Baden PROJECT K アルト」、自分のペースを刻む、まだまだピットの回数も残っており、単純に位置だけでは判断できない。

■終盤

さあ終盤の残り 1 時間、#55「STC 中部 Hana's ビート」が首位で 87Lap、20 秒差で#5「Baden PROJECT K アルト」が迫る。3 位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」85Lap、トップまでは 2 周。

本命の#10「FAST OUT 最速アルト V」が消えたことで、かえって争いが激しくなっている。

ここで#55「STC 中部 Hana's ビート」がスピン、最終ピットインもあって首位が入れ替わる…

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

終盤にトップに立った#5「Baden PROJECT K アルト」が、逆転勝利で念願の初優勝！勝利なき王者の名前を返上！

中盤はトップを張った#55「STC 中部 Hana's ビート」、ピット回数か、終盤の失速が痛かったか、それでも胸を張って2位表彰台。

3位は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」が連続表彰台で、すっかりエキスパートクラスの風格を身に着けてきた。

■総評

見事に勝利を手にした#5「Baden PROJECT K アルト」、まさに「天晴」！

NN マシンのペースが上がってきた今、旧規格の4回ピットはなかなか厳しいとも思われる、そのなかでの#55「STC 中部 Hana's ビート」も、その速さ・実力が相当のものであると確信。

そして順調にステップアップしてきた#6「ロッキーレーシング DXL アルト」は、もう少しの速さがあれば次の段階へと進めるに違いない。

#10「FAST OUT 最速アルト V」のトラブル、昨年の最終戦の悪夢がよぎる・・・がそれを振り払って次戦の3.5時間戦に準備をしていきたい。



やりました～



エキスパートクラス

NCクラス（軽NAのクローズドクラス）

開幕戦では、SC のピットタイミングで#25「アカミネコマル 2トゥディ」が勝利したが、僅かな運さえも味方につけてしまうのが絶対王者なのか。

一方、ネコを捉えそうで捉えられなかった、#66「VISCONTIトゥディ」、今回こそ、その蛇にネコを飲み込めるか。

それに GT 耐久との掛け持ちでダブルヘッダー参戦の#225「ぐっちっちブラウニートゥディ」の 3 台のトゥディが覇を競う。



久しぶりの勝利の味・・・ #66

■予選

予選トップは、今回も#66「VISCONTIトゥディ」1' 08.493。打倒ネコに燃えた開幕戦は惜しい結果に終わった。しかし燃える炎は消えることはない、必ず結果につながるはずだ。2 番手は#25「アカミネコマル 2トゥディ」1' 09.657、今回のウエイトは 20kg。3 番手#225「ぐっちっちブラウニートゥディ」1' 10.764、午前中のレースでは残念ながら#911 がリタイヤに終わっている。その分も走ってほしいものだ。

■序盤

開幕戦の雪辱に燃える#66「VISCONTIトゥディ」、序盤からそのトップを守る。序盤は開幕戦と同様だ。#25「アカミネコマル 2トゥディ」は 2 番手から様子をうかがうあたりも VTR を見ているよう。3 番手#225「ぐっちっちブラウニートゥディ」、開幕戦の序盤はシェイクダウンに近かったこともあって万全ではなかったようだが、今回はどうか。

■中盤

中盤ではがっぷり四つの争い。トップだった#66「VISCONTIトゥディ」イエローフラッグ追い越してペナルティ・・・嫌な予感がする。が、ここで踏ん張り、すぐにトップを奪い返す。”定位置”でのレースを今回はなかなかさせてもらえない#25「アカミネコマル 2トゥディ」は 2 位。

3 番手#225「ぐっちっちブラウニートゥディ」も今回は 08 秒台を記録し、しっかりと踏めているようだ。



今回は相手が一枚上だったか #25



こちらは連続 3 位 #225



完勝！！



かき氷はじめました

Race Report



■終盤

開幕戦の不運を振り払うかのように走る#66「VISCONTI トウディ」、じわじわとその差を広げる。#25「アカミネコマル 2 トウディ」は得意の追い込みにかかりたいが、ウエイトの影響もあるのか今回は差が縮まらない。
#225「ぐっちちブラウニートウディ」はここまでは自身のペースをしっかりと刻んでおり、大きなミスもないようだ。

■最終結果

開幕戦の不運から2ヶ月、#66「VISCONTI トウディ」が139Lapを走って堂々の優勝、想いは果たされた。
一方いつもの展開に持ち込めなかった#25「アカミネコマル 2 トウディ」は136Lapと差が開いた。キャプテンは「今回は完敗です、#66が強かった」とライバルを称えていた。
3位#225「ぐっちちブラウニートウディ」も、132Lapを記録し、堂々の3位だ。

■総評

しっかりと寄り切った、#66「VISCONTI トウディ」に「天晴」、相手を称える#25「アカミネコマル 2 トウディ」にも「天晴」、一日頑張ったチームのみんなにも「天晴」のレースだった。



もう一度聞きますが筒香選手のファンですか



NC クラス



勝ちました！！

じゃんけんは負けないぞ！！





祝！初優勝！！ #28



シリーズではトップをキープ #93



またもしぶといレースを見せ 3位 #330



決勝は4位だったが、貫禄のPP #392

TCクラス（軽過給機のクラス）

昨年まで行われていた新旧規格車のハンデが廃止された今シーズン。その開幕戦では久しぶりの優勝を#93「藤枝マリンダイビングアルト」がかざり、連続チャンピオンの#330「DIXCEL コンパノミラ」が2位となった。

運用変更の影響だけではないと思われるが、勢力図が変わってくるのが気になる第2戦。参加チームは大きく増えて全8チーム、開幕戦の5チームに加え元祖「カプチーノ Love」の#112「白須賀会」、こちらは元祖「VIVIO 遣い」#392「Zammers」、そして第3のVIVIOとして#24「そのまんまヴィヴィオ」が参戦。

■予選

予選トップは#392「Zammers ヴィヴィオ」1'05.547、今年の初参加でサクッと全体のPP、さすがVIVIO遣いかッケーっす！

2位#330「DIXCEL コンパノミラ」1'07.062、連覇中の王者チーム、やはり変更が響いているか。しかしこのチームの凄さは予選より決勝。

3位#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'07.870、開幕戦勝利で波に乗りたいたが、こちらはウエイトの影響もあるか、3番手からのスタート。

4位#28「KHK VIVIO」1'07.870、逆転を密かに狙っているのはこのチームだろう。

5位は#69「モモヤマレーシングアルト」1'08.530。

6位#112「白須賀会カプチーノ」1'09.655、7位#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」1'10.035、カプ対決、予選は#112 白須賀会の勝ち。

8位初参加の#24「そのまんまヴィヴィオ」1'10.452、NCクラス絶対王者#25「ネコマル2」の仲間がTCクラスに挑戦、急いで仕上げたというマシンの仕上がりはどうか。

■序盤

レース開始からわずか3周ほどでピットに入ってしまった#24「そのまんまヴィヴィオ」以外はまずまず順調なスタート。トップは#392「Zammers ヴィヴィオ」、2位#330「DIXCEL コンパノミラ」、#69「モモヤマレーシングアルト」の3台が上位陣を形成し、激しく争う。

#28「KHK VIVIO」、#93「藤枝マリンダイビングアルト」が第2集団、さらに6位#112「白須賀会カプチーノ」、7位#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」はさっそくのカプ対決を繰り広げている。

心配なのは#24「そのまんまヴィヴィオ」…無事復帰できるか。

■中盤

中盤で上位陣の陣容が固まってきた、トップは#330「DIXCEL コンパノミラ」、レース巧者ぶりを発揮する絶好の機会。

2位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」、こちらも経験豊富なチーム。さらに3位争いは#28「KHK VIVIO」と#392「Zammers ヴィヴィオ」ヴィヴィオ遣いの意地とプライドがぶつかる。

#112「白須賀会カプチーノ」、7位#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」のバトルもまだまだ決着は先。

好調だった#69「モモヤマレーシングアルト」、立体交差下のクラッシュパッドに…なんとか再スタートは可能。復活してきた#24「そのまんまヴィヴィオ」とともにゴールを目指す。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

終盤になってトップに上がってきたのは#28「KHK VIVIO」、昨年までの KEI からマシンを変えて臨んだ今季、92Lap を走って堂々のトップ走行。このままポジションを守れば念願の初優勝だ。

しかし、追いかけるのは歴戦の猛者たち。#93「藤枝マリンダイビングアルト」が91Lap で2位、その後ろには”予選よりレース”の#330「DIXCEL コンパーノミラ」が90Lap となっており全く気を緩めることは出来ない。

第2集団も混戦、4位#112「白須賀会カプチーノ」90Lap、5位#392「Zammers ヴィヴィオ」88Lap とこのあたりは表彰台をかけての戦いでもある。

第3集団は6位#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」87Lap、クラッシュから復活した#69「モモヤマレーシングアルト」85Lap、さらに序盤の不調から脱した#24「そのまんまヴィヴィオ」63Lap となっている。

下位2台のペースは上位陣に匹敵するペース、トラブルによって開いたギャップ以上は開かず、むしろ詰めている印象さえ与える。

■最終結果

最後まで踏ん張ったのは#28「KHK VIVIO」、嬉しい嬉しい初優勝！2位以下との差は1Lap。2位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」、3位は#330「DIXCEL コンパーノミラ」2位と3位は同一周回の秒単位の争いという僅差。

4位#392「Zammers ヴィヴィオ」も久しぶりの出場ながら PP と、さすがはタイトル経験者、表彰台には届かなかったが、上位を走るにふさわしい力を見せつけた。

5位#112「白須賀会カプチーノ」、6位#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」とカプバトルも白熱した。

7位#69「モモヤマレーシングアルト」、中盤のクラッシュは痛かったか。

8位#24「そのまんまヴィヴィオ」も序盤の出遅れがなければという気持ちはあるが、規定周回数を余裕を持ってクリアし見事完走。



カプバトルに勝って5位 #112



こちらのカプは6位 #82



またも不運に泣いた7位 #69



序盤の出遅れが悔やまれるが見事完走 #24



お見事！！

Race Report



■総評

ここでも「天晴」が誕生！#28「KHK VIVIO」マシンこそは変ったが見事に勝利を掴んだ。

2位3位4位もそれぞれ僅差の決着となり、どのチームもタイトル経験者にふさわしい「天晴」なレース運びを見せた。

シーズン最多のエントリーを集めた、TCクラス。あとは新型車の出番も待ち遠しいが、新たなチャレンジャーは現れるのだろうか。



TC クラス



トロフィーもオイルも！



さすがの強さ #38 ここまでは満点



大きな自信をつけたに違いない #488



中盤からのしびれる展開は見もの #91



チェッカーを受けることに意義がある #23

OPクラス（軽NAおよびターボのオープンクラス）

ターボとNAの改造車が一つとなった開幕戦では、昨年NOクラスの王者#38「デモリッションエグゼ」がまず1勝、TOクラス代表とも言える#23「Jatsun」はリタイヤと明暗分かれた格好。さて第2戦はどうだろうか。

開幕戦で自己最高位2位を記録した#448「spearhead(スピアヘッド)プレオ」に加え、#91「BRP★アルトバン」がターボ付きに進化して参加。

■予選

予選トップは、ターボ車の#23「Team Jatsun アルト」1'05.734でトップ。2位にはNAで挑む#38「デモリッションエグゼトウディ」が1'06.545、#23は気温上昇、#38はウエイトが懸念要素か。

3位は#448「spearhead プレオ」が1'07.828、前回の2位で自信がついたか、次なるチャレンジは大きな壁を乗り越えることだ。

4位は昨年のNAがターボ付きと進化しての#91「BRP★アルトバンターボ」、まずは慎重なスタートで1'12.300。

■序盤

#23「Team Jatsun アルト」、今回も早々と序盤から04秒台を記録して上位を走行。しっかりとルーティンピットをこなして、満点カリタイヤかの流れに終止符を打ちたい。2番手は#38「デモリッションエグゼトウディ」だが、まずはピットインを先行させたため、一旦は4位に下がる。

見た目のトップは#448「spearheadプレオ」、ピットインの関係上とは言え、トップ走行は気分のいいものだ。

#91「BRP★アルトバンターボ」も徐々にペースを上げて上位進出を狙う。

■中盤

序盤快調に走っていた#23「Team Jatsun アルト」だが、暗雲が垂れ込み始める。まず、黄旗中の追い越しでペナルティ、さらにその履行遅れとなり1周減算。

さらにレース中盤ではヘアピンでコースアウト、自らがSCの出動要因となってしまう。幸いマシンは修復され、順位を大きく落としたものの、レースには残れるようだ。

こうなると俄然有利なのは#38「デモリッションエグゼトウディ」、トップに上がるときちりと周回を積み上げてゆく。

2位争いが白熱、#448「spearhead プレオ」と#91「BRP★アルトバンターボ」が同一周回で競り合っている。さあどうなる。

■終盤

終盤になっても#38「デモリッションエグゼトウディ」は盤石の体制、全体のトップにもあがり2位以下に差をつける。

2位争いは相変わらず激戦、残り30分を切っても同一周回。順位的にはこの#448「spearhead プレオ」が先行、#91「BRP★アルトバンターボ」がぴったりマークという構図。これはどうなるかまだわからないぞ。

トラブルに見舞われた#23「Team Jatsun アルト」だが、その後もピット速度違反ペナルティを課されながらも踏みとどまっている。

Race Report



■最終結果

結局レースは”いつものように”、#38「デモリッションエグゼトウディ」がチェッカー、またも総合優勝。

大接戦となった2位争いは#448「spearhead プレオ」が#91「BRP★アルトバンターボ」を振り切った、その差なんとコンマ769！

自分たちの日ではなかった#23「Team Jatsun アルト」だったが、苦しい中でも完走をし、嫌な流れは断ち切れたか。

■総評

このクラスの「天晴」は白熱の2位争い、3時間走ってのコンマの差は本当にしびれた。ヒリヒリした展開を守りきってのバトルはこのチームにまた一つ大きな自信をつけさせたに違いない、相手の#91「BRP★アルトバンターボ」にも「天晴」だ。

そして#23「Team Jatsun アルト」が苦しみながら完走したことで、これも大きな成果を持って帰る。

もちろん、さすがのレースを見せた#38「デモリッションエグゼトウディ」にも大きな「天晴」だ。



僅かの差



OP クラス

